

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

■ 美術教育をととして美術造形に対する憧憬を生涯の目標とし、人生を拓く力、品性溢れる人格を育む — Spread the KONAN-Style —

- 1 創造的活動の源泉となる基礎学力と言語表現力を育み、生涯にわたって美術を愛し、生活の場において美意識を大切する生徒を育成する。
- 2 自分にあった進路が発見できる環境を整えて進路実現につなげるとともに、社会人としての責任感や品性を育成する。
- 3 美術造形教育のセンター校として、美術造形教育の充実・振興に貢献し、文化都市大阪の実現に寄与する。

2 中期的目標

1 創造的活動の源泉となる「確かな学力」と「言語表現力」の育成

(1) 造形表現に必要な基礎的で確かな学力の定着に取り組む。

- ア 生徒に自身の学力プロフィールや将来への必要性を客観的に理解させ、実技教科と同様に普通教科に対する関心・意欲を高め、学習に取り組ませる。また、家庭学習強化週間などを通して、学習の大切さに気付かせるとともに学習習慣を身につけさせる指導に取り組み、学習意欲を喚起するために学力テストを活用し、基礎学力の確かな定着をめざす。
- イ 生徒の学力が多様であることを踏まえ、個に応じた学力の養成を行うために普通教科においても少人数授業の実施を検討し、ICT 機器の利用を一層推進する。また、読書活動の充実に加え調べ学習を効果的に採り入れ、創造的活動の基礎・基本となる幅広い学力の養成に努める。
- ウ 造形科の合評とともに普通教科においてもプレゼンテーションや相互批評を行うなど、常に工夫と研究を重ね「主体的・対話的で深い学び」をめざしコミュニケーション能力と言語表現力の育成を図る。また、卒業制作プレゼンテーションなど、コミュニケーション力を実践させる機会を積極的に設ける。
- エ 日本の伝統文化や伝統工芸とともに世界の文化遺産を自らの眼で見る機会をつくり、それらの学びや体感をとおして幅広い教養を身につけさせる。また、教員の指導力向上のため校内研修を充実させる。
- ※ 授業アンケートにおいて普通教科の「授業内容に興味・関心をもつことができたか」について肯定的回答(平成 28 年度 75%)を 5%引き上げて維持し、平成 31 年度には 80%とする。
- ※ プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力の育成については、卒業時にはすべての領域の生徒が ICT 機器を活用するなどしてボードや映像を用いてプレゼンテーションを行える力を身につけさせ、造形表現力とともに言語表現力の育成を図る。授業での ICT 機器活用(平成 28 年度は 2355 時間)を毎年 3%引き上げて、平成 31 年度には 2500 時間に増加させる。
- ※ 生徒が自らの考えをプレゼンテーションできる能力に加え、他者の考えも認め、自他の権利を尊重し互いにたえ合えることができる力の醸成を図る。

2 将来展望がもてる進路指導の実現

(1) 将来の職業につなげる志や力を身につける。

- ア 生涯にわたる美術造形とのかかわり方や広い視座による将来展望を考えさせるとともに、将来の職業につなげていく志や力を育てるため、内外で活躍する卒業生の講演、企業や芸術団体と連携した取組み、高一大・専連携講座等の一層の充実を図る。
- イ 早期からガイダンスを計画的に実施し、具体的な目標の実現に至る道筋を示すとともに、個に応じたきめ細かな進路指導を組織的に行う。また、国公立大学(美術系等)や難関私立美大進学を実現につなげる進路指導体制を整備する。国公立大学進学希望者をはじめとするセンター入試受験者には、実技と学習にバランスよく取り組めるよう、補習・講習の時間について整理と管理を行う。
- ウ 個別の進路決定につながるきめ細やかな進路指導の充実を図る。
- エ 進路指導の指標として、自から選択した進路希望の達成・満足度などを「進路情報等に関するアンケート調査」にて実施し、進路指導の充実を図る。
- ※ 進学希望者講習への参加者(平成 28 年度 120 名)を毎年 5%引き上げ、平成 31 年度には 139 人にする。
- ※ 創造的活動に意欲的に取り組ませるとともに社会人としての基礎力を養成するため、部活動への積極的な加入をすすめ、改善を重ねてきた部活動加入者数(入部率 110%)や高校展等への出品者数(1、2 年生の出品率 50%)が減少しないよう取組みを継続し、平成 31 年度においても現在の水準を維持する。
- ※ 卒業時に「個別の進路決定にあたって進路指導が役立ったか」の調査を行い、肯定的回答が平成 29 年度は 80%となるように努め、平成 31 年度においても維持させる。
- ※ 卒業時に行う「進路指導等に関するアンケート調査」において満足度が 90%となるよう努め、平成 31 年度においても維持する。

3 美術造形教育センター校としての役割

(1) 府立唯一の美術専門学科設置校としての役割を担う。

- ア 大阪の美術教育の振興に貢献するため本校の教育資源(施設設備、教員、大学・美術工芸団体等との連携関係)を有効に活用し、校種をこえて小・中学校の教員向けの実技研修会を実施する。
- イ 地域・外部連携事業、ボランティア活動、公募展等へ積極的に参加させ、生徒に発表の喜びや社会貢献の大切さを体感させる。また、地域をはじめとして大阪や全国にも本校の存在感を示していく。
- ウ 府立高校で唯一の美術造形専門高校にふさわしい教育活動を展開するため、施設設備及び教材教具等の適切な改善と充実を図るとともに、国際情勢を見つつ海外研修旅行の実施に向けて取り組む。
- エ 校外における生徒作品の展示、報道媒体への情報提供、HP の充実等による積極的な広報活動を展開し、大阪における本校の存在感を高める。
- ※ 本校で開催する小・中学校教員を対象とする研修会やワークショップへの参加者数は、平成 31 年度においても 100 名以上の水準を維持させる。
- ※ 海外、国内の作品に触れる機会を設けることにより、創造的活動を通じて国際理解教育の推進を図り、平成 31 年度においても海外、国内の作品に触れる機会を 5 回以上実施を維持する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 11 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導等】</p> <p>○「自分の考えを人前で発表する機会がある」については肯定的回答が 80%となっている。全ての生徒に発表の機会を与えているので、発表しているという自覚が浸透してきていると思われる。特に 1 年生の数値が高く、今後に期待したい。</p> <p>○「進路や生き方について考える機会がある」は 1、2 年生で肯定的回答 90%を超え、全体 89%となっている。教員向けでも 91%であり、学校全体として興味・関心、適性に応じた個々の進路指導が進められている。</p> <p>【生徒指導等】</p> <p>○「悩みや相談に適切にアドバイスしてくれる先生がいる」については肯定的回答が 76%であるのに対して、教員向けでは 86%となっている。今後も教育相談体制の充実に努めたい。</p> <p>【学校運営】</p> <p>○「大学等との連携」については肯定的回答が 86%と高い評価のものがある一方、「学校運営に意見が反映されている」が 43%にとどまり、より参加しやすい体制が望まれる。</p>	<p>【第 1 回】 6 月 28 日</p> <p>・コミュニケーション能力を伸ばすためには、日常の様々な科目で機会をとらえてグループワークや対話式の授業などの工夫が必要である。</p> <p>【第 2 回】 11 月 9 日</p> <p>・授業の在り方としてアクティブ・ラーニングが言われて久しい。学びの定着は、講義だけでなく 5%だが、人に教えると 90%になる。「生徒が授業の主体に」といわれている。また、普通教科で机・いすの配置形態を変えるなどの工夫もみられる。今後、学習定着のために授業観を変えていく必要がある。</p> <p>【第 3 回】 3 月 7 日</p> <p>・生徒が ICT 機器を活用して発表する際に大切なことは、機器を使いこなすことではなく、発表に至るまでの協議や考察である。考える力の育成に着眼した指導を願う。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 創造的活動の源泉となる基礎学力と言語表現力の育成	(1) 基礎的で確かな学力・言語表現力の育成 ア 学力診断テストの活用 イ 読書活動の充実 ウ 言語表現力の育成 エ 知的好奇心の育成	ア 学力診断テストを年2回実施し、自己の学力の相対的な状況を認識させるとともに、造形表現力の向上には基礎学力を向上させることが不可欠であることに気付かせる。 イ 調べ学習を積極的に採り入れるとともに、創作活動には読書や鑑賞が重要であることを理解させ身につけさせるため、授業における図書館利用やICT機器の活用を促進する。 ウ 自分の考えを人に伝える言語表現力を向上させるため、生徒間の意見交換やプレゼンテーションの機会を確保する。 エ 日本の伝統文化・伝統工芸、世界の美的文化遺産に対する興味を喚起し、幅広い教養を身につけさせるために知的好奇心を育成する。	ア・学力診断テスト結果 第1回(5月)と第2回(8月)の学習到達度ゾーンの比較を活用する。 (上位ゾーン20%向上 H28は33.3%上昇) イ・授業の図書館利用やICT機器利用3%増。 (H28は2355時間) ウ・学力診断テストにおける国語で重点的に測定。 (下位ゾーン20%減少 H28は40%減) エ・外部講師による講座10回実施。 (H28は12回) ・海外、国内の作品に触れる機会を設ける。 (5回実施 H28は7回)	ア・学力診断テストによる測定結果 4月に比して8月では上位ゾーンの生徒が25.1%増加し、基礎学力の向上が見られた。次年度も基礎学力充実のため家庭学習の強化を進めたい。(○) イ・授業での図書館利用やICT機器の活用が促進された。次年度も維持向上に努めたい。 図書室及びICT機器の利用状況 5.8%増加 (○) ウ・重点的に指標としている学力診断テストによる国語の下位ゾーン人数について、4月に比して8月では40%減少した。次年度も国語基礎力の定着に努めたい。(◎) エ・伝統文化や伝統工芸などの外部講師による講座を14回実施し、生徒の興味喚起を促進した。今後も継続実施に努める。(◎) ・海外研修は昨年度より台湾に変更し姉妹校の台中第一高級中学との生徒交流を行った。次年度は台湾から本校への生徒派遣も決定するなど一定の成果が見られた。平成28年度に海外、国内の作品に触れる機会は8回実施。(○)
2 将来進路が持てる進路指導の実現	(1) 将来の職業につなげる志や力を身につける ア 高一大・専連携講座や講演を充実 イ 進学希望者講習の充実 ウ 卒業時に進路指導に対する意識調査を実施。 エ 希望した進路が実現できたかを調査をする。	ア 大学・専門学校から講師を招いて行う講演会は、「美術造形の学びを将来の職業に生かす」というテーマに基づいて実施する。 イ 進路実現に向けた進路指導体制を構築し、国公立大学・難関私立大学進学希望者を対象にした講習を計画的・組織的に実施し、年間をとおして受講者の定着を図る。 ウ 進路指導が個別の進路決定に役立ったかを調査し、その分析を進路指導の充実に活用する。 エ 卒業時に自分の進路目標が達成できたのかを調査し、生徒の進路満足度の向上につなげる。また、今後の進路指導計画策定の資料として活用する。	ア・講座参加生徒数500名以上。 (H28は521名) イ・進学希望者講習の受講者数126名以上(H28は120名) ウ・進路指導満足度80%以上。 (H28は未調査) ・卒業生による交流会や講演会開催 エ・希望進路達成率90%以上。 (H28は91.6%)	ア・大学や専門学校の講師による講座は、532人が参加した。次年度も意義ある内容で実施したい。(◎) イ・国公立大学・難関私立大学進学希望者対象の講習には、通年で129名の生徒が参加し、学力と進路意識の向上が図れた。次年度も1年次からの意識高揚に努めたい。(○) ウ・進路指導満足度83.6% エ・進路希望達成率は93.1% 進路ガイダンスに加えて、個別指導により希望進路を決定させた上で、進路実現のための講習などを徹底し、ほぼ全員が自分の進路に満足できる結果となった。次年度も造形独特の個別指導とともに、高い理想を持てる進路指導を実施したい。(◎)
3 美術造形教育センター校としての役割	(1) 府立唯一の美術専門学科設置校としての役割を担う ア 小中学校教員対象実技研修会実施 イ 学外展への積極的出品参加を奨励 ウ 学校の専門施設設備の充実 エ 広報活動の充実	ア 小・中学校教員を対象にした実技研修会を大学等と連携して実施する。 イ 高校展や芸文祭等の高校生向け公募展はもとより、大学・専門学校や企業などの外部団体が主催するコンクールに積極的に出品させ、制作意欲の喚起に資するとともに力量や質の向上につなげていく。 ウ 専門施設設備の維持管理に努め、更新と充実に努める。 エ 積極的な広報活動のため、ホームページの更新に努める。	ア・参加者数の120名以上維持 (H28:120名) イ・出品者数の維持 (高校展260名以上) (芸文祭210名以上) ウ・必要な更新の優先順を決め計画的に維持更新を行う。 エ・ホームページはH28に全面リニューアル済みにつき、今後は年間12回更新する。	ア・本校の行事と小・中学校の行事が重なり、52名の参加にとどまったが、少人数対応で内容の濃い講座となった。(△) イ・高校展出品者は284人 近総文には全府で240人が入選したが内72名が港南造形より入選 強い制作意欲と集中力で、完成度の高い作品ができた。今後も美術専門校生として高い意識で臨ませたい。(◎) ウ・短焦点プロジェクターを追加購入しプレゼンテーション機会を増やした。(○) エ・HPを98回更新し、広報に努めた。(◎)